

論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表

学位規則第 8 条に基づき、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

フリガナ 氏名 (姓、名)	ナカノ オサム 中野 修		授与番号 甲 1509 号
学位の種類	博士 (人間科学)	授与年月日	2021 年 3 月 31 日
学位授与の要件	本学学位規程第 18 条第 1 項該当者 [学位規則第 4 条第 1 項]		
博士論文の題名	芸術療法における絵本や音楽を媒介とした人と人との「つながり」の研究		
審査委員	(主査) 増田梨花 (立命館大学大学院人間科学研究科教授)	(副査) 森岡正芳 (立命館大学総合心理学部教授)	
	(副査) 山本博樹 (立命館大学総合心理学部教授)	(副査) 岡崎香奈 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)	
論文内容の要旨	<p>本論文は教育現場での調査と実践、絵本や音楽をはじめとする芸術を媒介とした 6 つの事例を通して、人と人との「つながり」の観点から研究を行った論文である。本論文の「つながり」の定義は「人と人、自分自身や人と媒介物のであいにおける、安心感を伴う『場』での相互作用、相互交流のある関係」である。本論文の新しい知見から芸術、特に絵本や音楽を媒介とした実践での対象者の幅広い人間理解と、人と人との「つながり」の構築に役立てられ、芸術療法の新たな可能性と社会全体の幸福への寄与を願う論文である。</p> <p>本論文の独自性や新奇性は、芸術、特に絵本や音楽を媒介にした人と人との「つながり」の構築を明らかにした以下の 5 つの点である。①芸術を共に創造することでセラピストとクライアントに相互性が生まれ、その体験から両者に「つながり」が構築される。②絵本や音楽の「場」では読み手や演奏者という表現者と、聞き手という表現者による即興的な行為によって「つながり」が構築される。③「つながり」は過去、現在、未来の時間軸を含む。④相乗効果で絵本の世界を音楽が後押しする。⑤絵本や音楽を媒介とする実践に人と人との「つながり」という相互作用の視点を導入することで、セラピストクライアント間のほか、クライアントの背景にある幅広い人間理解に役立つ可能性を明らかにした。</p> <p>本論文の構成は以下のとおりである。</p> <p>本論文はⅠからⅦで構成され、Ⅰでは本研究の着想の経緯や「つながり」の定義、目的と意義などを記した。Ⅱでは芸術療法の定義とその技法に関する概要と先行研究を記述した。Ⅲでは音楽療法、絵本を活用した心理療法の概要と先行研究を示し、Ⅳの研究 1 では、芸術を媒介することで教員同士が「つながれる」可能性を示した。Ⅴの研究 2 では、芸術という媒介物を共に創造し、安心感を得られる「場」で「つながり」が構築されることを明らかにした。研究 3 では、絵本の聞き手も読み手も表現者であり、絵本を媒介とした相互作用が起き、絵本の体験を通して児童が「今」や未来の自分や社会と「つながる」と考察している。また、即興的に読むことで「スクールカウンセラー(表現者)ー絵本ー子どもたち(表現者)」の三者の「つながり」が構築されたことを明らかにした。研究 4 では絵本と音楽の媒介により、メンバーが自身の過去や未来と「つながる」ことや交流を促すことが示唆され、心理的・社会的な「つながり」の構築に役立つと考察している。Ⅵの研究 5 では、絵本と音楽のイベントの場を実施者と参加者が共に創造することで、心理的・社会的に人と人との「つながれる」ことを明らかにした。研究 6 では絵本と音楽のイベントから、人と人との心理的、社会的、物理的に「つながり」、</p>		

	<p>「みんな」で復興地や被害者に想いを馳せ、災害の怖さを次の世代に「つなぐ」想いをひとつにすることを考察している。Ⅶでは各事例の要約、芸術のもつ媒介性、絵本や音楽の臨床的要素などを論じている。そして、本論文の限界と課題ではさらなる知見の蓄積などを指摘している。今後の展望は、人と人とのつながりを保つという社会的要請に対し、絵本や音楽の活用は有意義と考えられるため、様々な年齢層、背景をもつ方々と絵本や音楽を通して「つながり」、将来的には対人援助職の心理的ケアや絵本や音楽の治療的な働きを明らかにする可能性を示唆している。</p>
<p>論文審査の結果の要旨</p>	<p>本論文では、「つながり」というキーワードをベースに、教育領域、福祉領域、復興地支援といった様々な現場での調査と実践を踏まえた研究という特徴があり、信頼できる実践事例をもとにその理論を実証しているという点で、高く評価できる。絵本や音楽をはじめとする芸術を媒介とした6つの事例を通して、絵本や音楽を媒介にした人と人との「つながり」の構築を明らかにした点において、当該研究分野に対して貢献する独自性や新奇性が認められる。</p> <p>本論文のオリジナリティとして、具体的には、芸術、特に絵本や音楽を媒介にした人と人との「つながり」の構築を明らかにした、以下の5つの点が挙げられた。</p> <p>①芸術を共に創造することでセラピストとクライアントに相互性が生まれ、その体験から両者に「つながり」が構築される。②絵本や音楽の「場」では読み手や演奏者という表現者と、聞き手という表現者による即興的な行為によって「つながり」が構築される。③「つながり」は過去、現在、未来の時間軸を含む。④相乗効果で絵本の世界を音楽が後押しする。⑤絵本や音楽を媒介とする実践に人と人との「つながり」という相互作用の視点を導入することで、セラピストとクライアント間やクライアントの背景にある幅広い人間理解に役立つ可能性が明らかにしている。</p> <p>以上のように、本論文は当該分野のオリジナルな研究成果として認めうるものであり、博士学位に値する論文として評価できるものである。しかし、審査委員会で指摘されたものを含め、次のような課題もある。</p> <p>本論文における審査委員会での指摘には、多義的な言葉である「つながり」の中身や捉え方、「つながり」をつくり出すことへのより深い考察、そして6つの事例のひとつひとつをつなぎ、本論文を立体的に構成することの必要性と、研究を通じた理論構築のほか、絵本を後押しする音楽の要素をより明細化したほうがよいとの指摘があった。</p> <p>上記のように、申請者の今後の課題がいくつか指摘され、本論文に関する申請者の「つながり」の理論と実証をアップデートできる余地が大いに残されていることが明らかにされた。</p> <p>今後の申請者の研究の展望として、人と人との間にどのように「つながり」がつくり出され、そして紡がれていくプロセスを各事例からさらに丁寧に汲み取りながら明らかにしていくこと、また、研究を通じた理論構築に関しては、「つながり」を構築するための介入方法など、さらなる実践を通して理論を立ち上げ、現場の臨場感がより伝わる文章と発表の工夫により、他の臨床家への実践に寄与する研究に発展させることを審査会から示された。</p> <p>以上のようないくつかの課題を残しながらも、先に述べた優れた点を考慮し、審査委員会は一致して、本論文は本研究科の博士学位論文審査基準を満たしており、博士学位を授与するに相応しいものと判断した。</p>
<p>試験または学力確認の結果の要旨</p>	<p>本論文の公聴会は2021年1月13日(水)14時40分～16時40分まで、OICキャンパスAN328で行われた。</p> <p>申請者は、2018年4月に立命館大学大学院人間科学研究科博士課程後期課程に入学し、現在に至っている。その間、臨床心理士としてスクールカウンセラーや精神科デイケアの心理職等、臨床現場での実践家として研鑽を積んできた。</p> <p>研究業績としては、査読付き論文(単著)4点、査読付き論文(共著)1点、書籍の分担執筆(共著)1点の他、数点の論文業績がある。また研究報告についても審査付きの学会口頭発表が2点、審査無しの学会口頭発表が3点、他にもポスター発表や論文関連の講演が複数あるなど、当該論文に関連する研究業績の十分な蓄積が認められる。</p> <p>審査委員会は、申請者の経歴ならびに業績の評価により、申請者が十分な知識と学識を有していること、外国語文献の読解においても十分な能力を備えていることを確認した。</p> <p>主査1名および副査3名は、公聴会の質疑応答を通して、博士学位に相応しい能力を有することを確認した。</p> <p>したがって、本学学位規程第18条第1項に基づいて、学位申請者中野修に博士(人間科学 立命館大学)の学位を授与することが適当であると判断する。</p>